ジセレカ®錠服用患者さん向けサイトと動画のご案内

ジセレカ®錠を適正にご使用いただくため、
ジセレカ®錠を服用される方とそのご家族が、
ジセレカ®錠の情報をご覧いただけるサイト及び動画です。

サイト URL　https://www.jyseleca-pt.jp/ra/index.html

動画 URL　https://jyseleca-pt.jp/movies/starterkit.mp4

ギリアド・サイエンシズ株式会社
お問い合わせ：
メディカルサポートセンター
フリーダイヤル：**0120-506-295**
9:00-17:30（土日祝日及び会社休日を除く）

エーザイ株式会社
お問い合わせ：hhcホットライン
患者様用ダイヤル：0120-151-454
医療関係者用ダイヤル：0120-419-497
フリーダイヤル（通話無料）
【平日9時～18時（土日・祝日9時～17時）】

医療機関名

JYS25SA0994PA
JYS1081BKA
2025年6月作成

関節リウマチ患者さん用

ジセレカ®錠を服用される
患者さんとご家族へ

より良い治療のための手引き

監修：金子 祐子先生（慶應義塾大学医学部 リウマチ・膠原病内科 教授）

GILEAD　Eisai

関節リウマチとは
関節リウマチの治療ゴールに向かって
治療についての新しい考え方
お薬による関節リウマチの治療法
ジセレカについて
ジセレカの治療を受けるにあたって
医療費負担を軽減する制度

はじめに

かつて関節リウマチというと、進行が止まらず、痛みや腫れなどの症状と一生付き合っていかなくてはいけない病気でした。
しかし最近では、関節リウマチ治療の研究と開発が進み、関節リウマチの症状や兆候がなくなった状態である「寛解（かんかい）」を目指せるようになり、治療によって普通に生活することもできるようになってきています。

ジセレカ®錠は、関節リウマチの炎症を引き起こすシグナルを抑えて関節の炎症を治療する「JAK（ジャック）阻害薬」と呼ばれる飲み薬です。

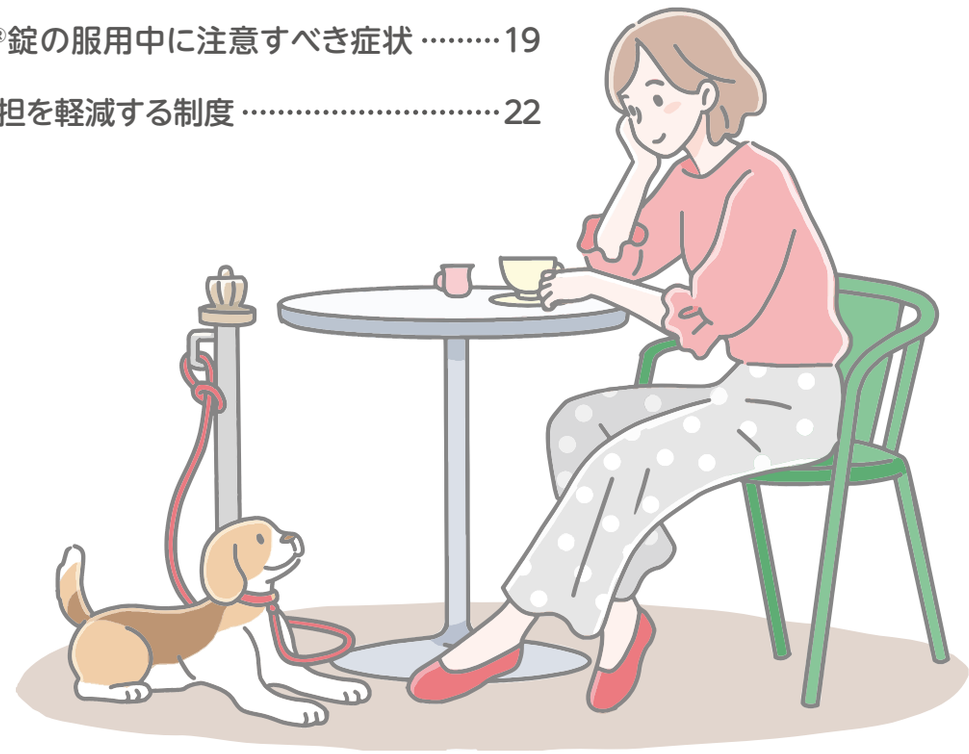
この冊子では、関節リウマチ治療を行なっていく上で大切なことや、ジセレカ®錠の服用を始めるにあたって知っておいていただきたいことをまとめています。

治療のことや将来のことなど気になることがあったら、医師や看護師に相談してみてください。
きっと、あなたに合った治療がみつかるでしょう。

金子 祐子先生
（慶應義塾大学医学部 リウマチ・膠原病内科 教授）

目次

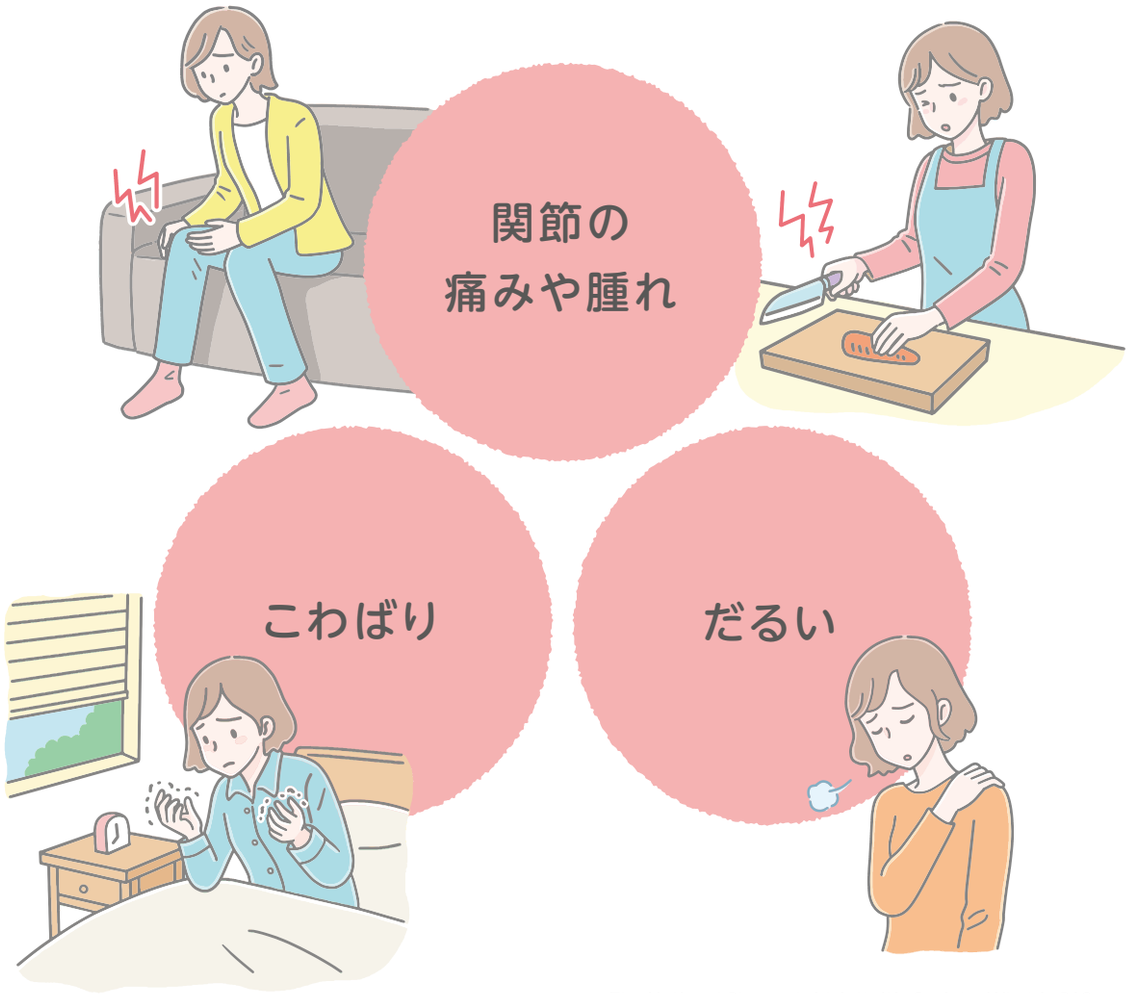
関節リウマチとは ……4
関節リウマチの治療ゴールに向かって ……6
治療についての新しい考え方 ……8
お薬による関節リウマチの治療法 ……10
ジセレカ®錠のはたらき ……12
ジセレカ®錠の服用方法 ……14
ジセレカ®錠による治療を続けることで期待できること ……16
ジセレカ®錠の服用前に確認すること ……18
ジセレカ®錠の服用中に注意すべき症状 ……19
医療費負担を軽減する制度 ……22



関節リウマチとは

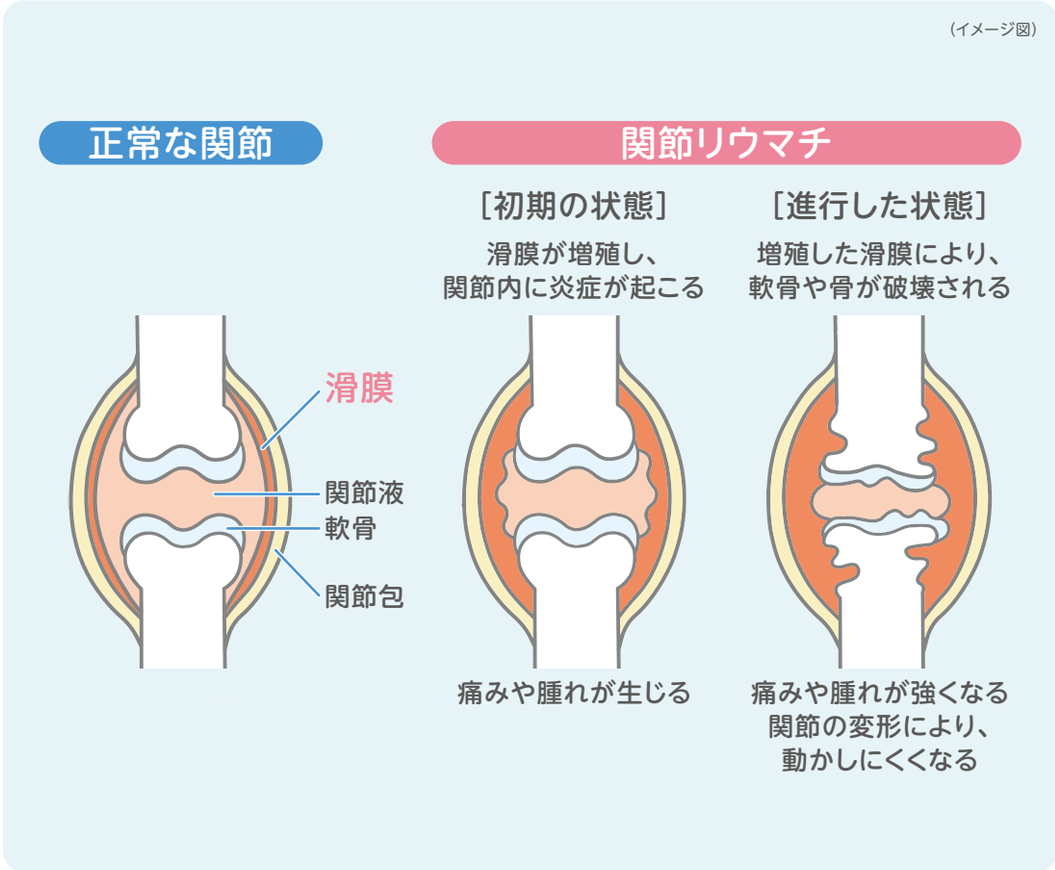
関節リウマチは、関節の痛みや腫れ、こわばりなどの症状を引き起こします。また全身の症状として、だるさを感じるなど、関節以外の症状もみられます。放っておくと関節が変形して曲がり固まってしまい、動かしにくい状態となり普段の生活にも支障をきたすことがあります。

主な症状



The National Rheumatoid Arthritis Society. What is RA?
https://nras.org.uk/resource/what-is-ra/ より作成(2025年5月閲覧)

関節リウマチによる炎症の原因の一つとしてサイトカイン(→p.12)が影響していることが分かっています。炎症をそのままにしておくと骨や軟骨が徐々に破壊されていく可能性があり、一度破壊されると元には戻すことができません。進行する前に治療を行うことが重要です。

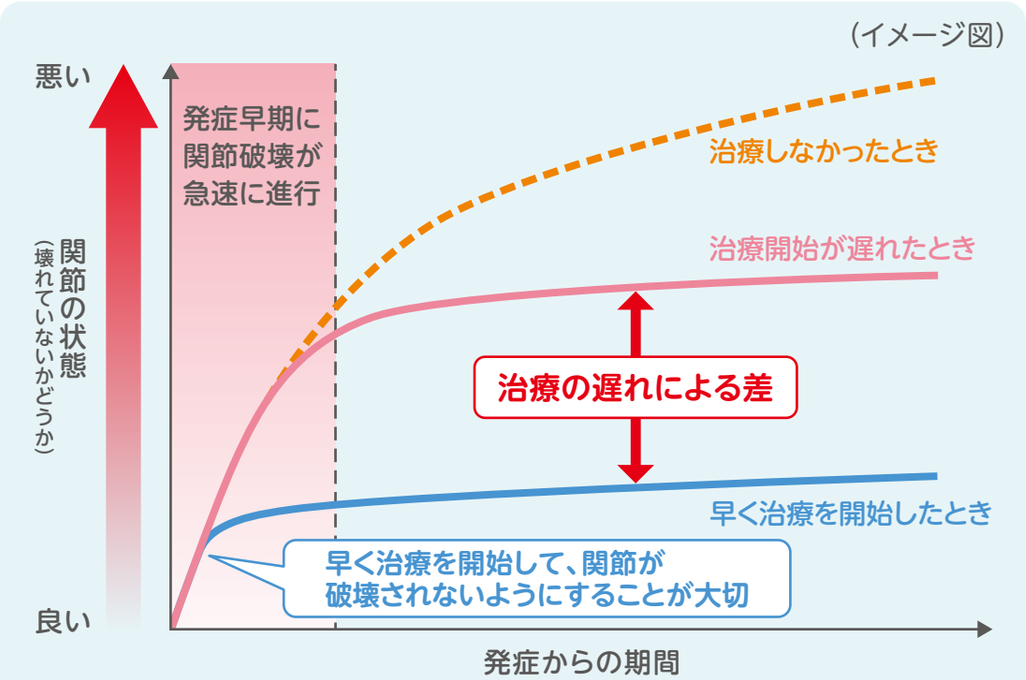


Steinbrocker O et al, J Am Med Assoc. 1949, 140(8), 659-662. より作成

関節リウマチの治療ゴールに向かって

関節破壊の進み方と治療効果

関節リウマチによる関節の破壊は、徐々に進みますが、特に早期（発症1～2年以内）にもっとも急速に進行するため、関節破壊が始まる前にお薬による治療をしっかりと行うことが大切です。



図：神崎 初美ほか. 最新知識と事例がいっぱい リウマチケア入門―リウマチ治療はここまで変わった!, 第1版, メディカ出版, 2017,53より改変

写真：Takeuchi T. Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci. 93(8): 600-608, 2017より一部抜粋

関節リウマチの治療ゴール

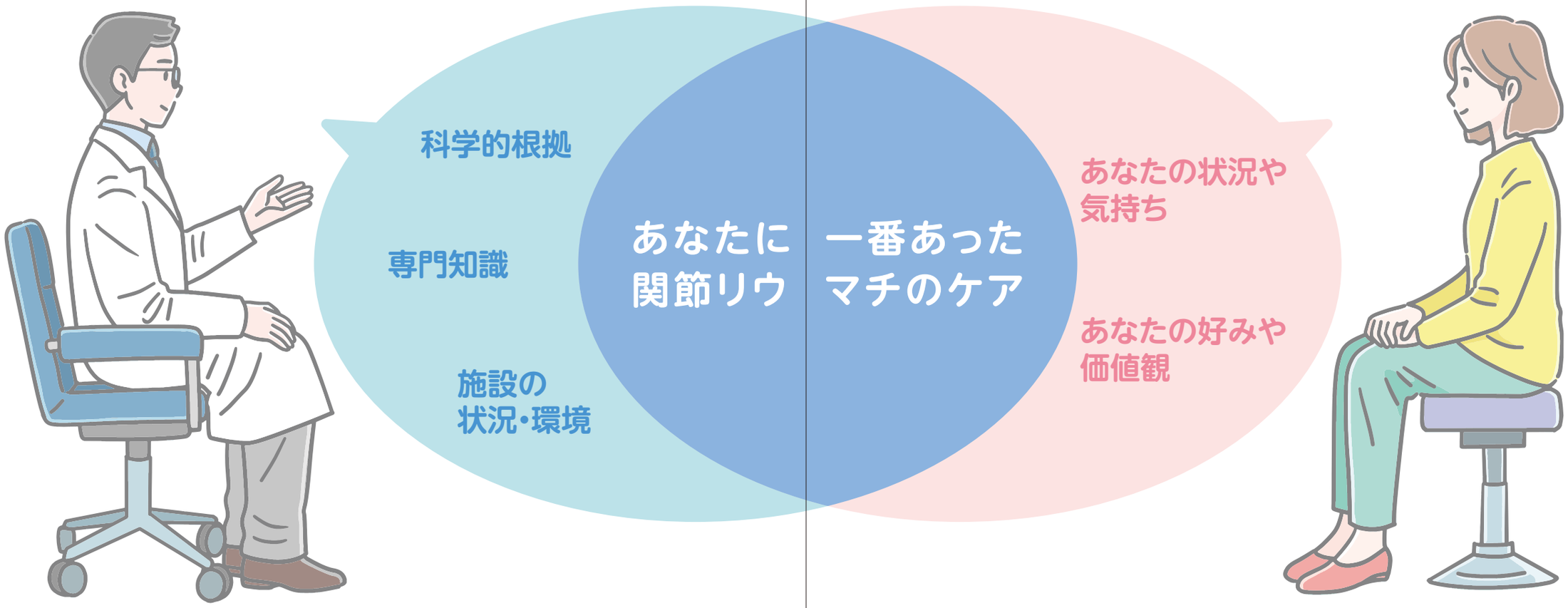
関節リウマチ治療のゴールは、長い人生において生活の質（QOL）を良い状態に保ち続けることです。

ゴール達成のために 3つの「寛解」を目指しましょう。

- 関節の痛みや腫れをとりのぞく【臨床的寛解】
- 骨や軟骨の破壊を抑える【構造的寛解】
- 普通の生活を送れる【機能的寛解】

治療についての新しい考え方

関節リウマチの治療を続けていくためにも、
主治医の先生に普段感じている負担や不安、要望を伝えることが重要です。



「あなたの意思を尊重する」
という考え方

金子 祐子先生

主治医は、あなたと一緒に話し合いながら、治療方針などを決めていくプロセスを大切にしています。これは、関節リウマチと長い期間にわたって上手に付き合っていくために、とても大切な考え方です。最近では、関節リウマチの治療薬が数多く登場し、選択肢が増えてきました。あなたにあった治療を主治医の先生と相談しながら決めていきましょう。

お薬による関節リウマチの治療法

関節リウマチは、主にお薬を用いて治療します。
お薬は、大きく分けて2種類あります。

痛みや腫れなどの症状を抑える薬（対症療法）

非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）	関節の痛みや腫れを和らげる薬ですが、病気の進行を抑える働きはありません。服用に際しては腹痛などの副作用に注意が必要です。
ステロイド剤（副腎皮質ステロイド）	炎症を抑え、関節の痛みや腫れを和らげます。効果が期待できる反面、合併症などの副作用に注意が必要です。

関節が壊れるのを抑える薬（抗リウマチ療法）

従来型抗リウマチ薬（免疫調整薬・免疫抑制薬）	関節リウマチの免疫異常を改善させることにより炎症を抑える薬で、関節リウマチの進行を抑える働きが期待できます。薬によって副作用が異なります。
生物学的製剤【注射薬や点滴】	サイトカインに作用し、関節の痛みや腫れを和らげたり、関節が壊れるのを抑えることが期待できます。これまでの治療で十分な効果が得られなかった場合でも治療効果が期待できますが、副作用にも注意が必要です。
JAK阻害薬【飲み薬】	JAKという酵素の働きを抑えることで（→p.13）、関節の痛みや腫れを和らげたり、関節が壊れるのを抑えることが期待できます。これまでの治療で十分な効果が得られなかった場合でも治療効果が期待できますが、副作用にも注意が必要です。

※この他に抗RANKL抗体、漢方薬などを用いる場合もあります。

関節リウマチの治療は、定期的にお薬の効果を確認しながら、
症状の早期寛解を目指します。

01 薬物治療の開始

メトトレキサートが使いにくい場合

- メトトレキサート 飲み薬・注射薬
- その他の従来型抗リウマチ薬 飲み薬・注射薬

↓ 治療効果が不十分な場合

患者さんのライフスタイルやご希望に合わせて、錠剤や注射剤を選択いただけます。

02 薬剤の変更

- 生物学的製剤 注射薬
- JAK阻害薬 飲み薬

患者さんの状況に応じてメトトレキサートなどの従来型抗リウマチ薬（飲み薬・注射薬）を併用

↓ 治療効果が不十分な場合

03 薬剤の変更

その他の生物学的製剤またはJAK阻害薬

患者さんの状況に応じてメトトレキサートなどの従来型抗リウマチ薬（飲み薬・注射薬）を併用

治療効果は3～6ヵ月を目安に評価

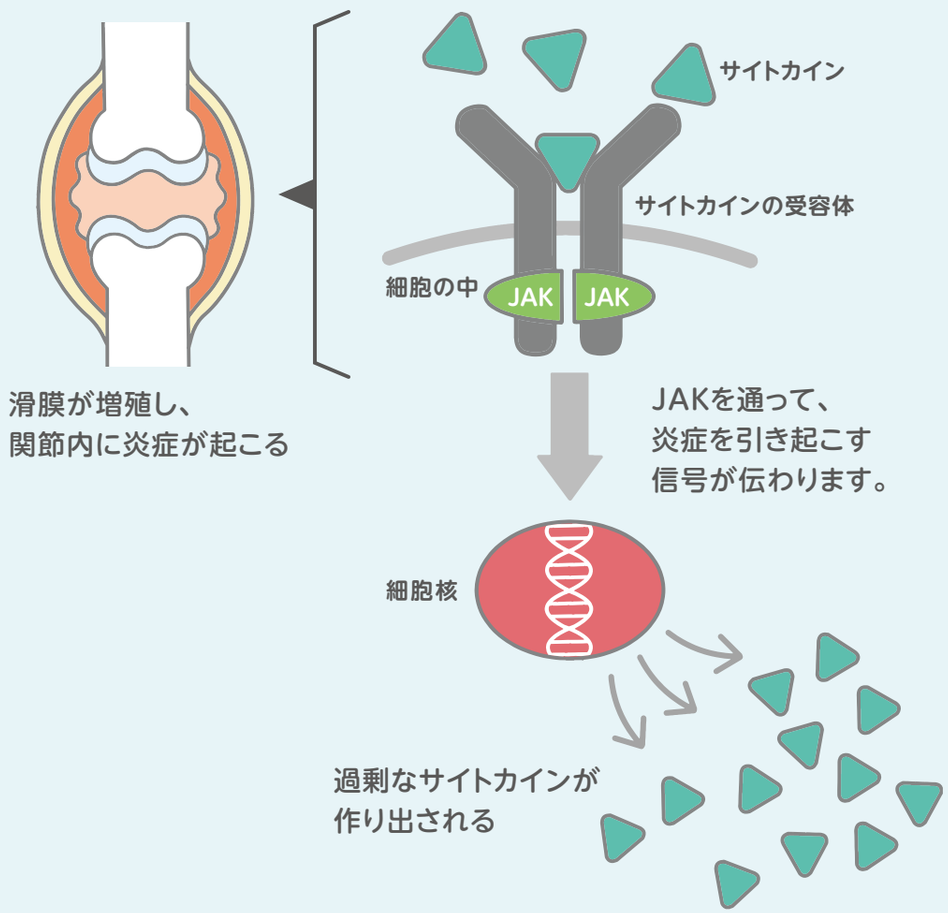
慶應義塾大学医学部 リウマチ・膠原病内科 金子 祐子先生よりご提供

ジセレカ®錠のはたらき

痛みや腫れなどの原因となる炎症を滑膜のなかで引き起こしているのは、過剰に作られてしまったサイトカインです。
サイトカインは、受容体にくっつくと、その刺激が伝達されていき、さらなるサイトカインを作り出してしまいます。

（イメージ図）

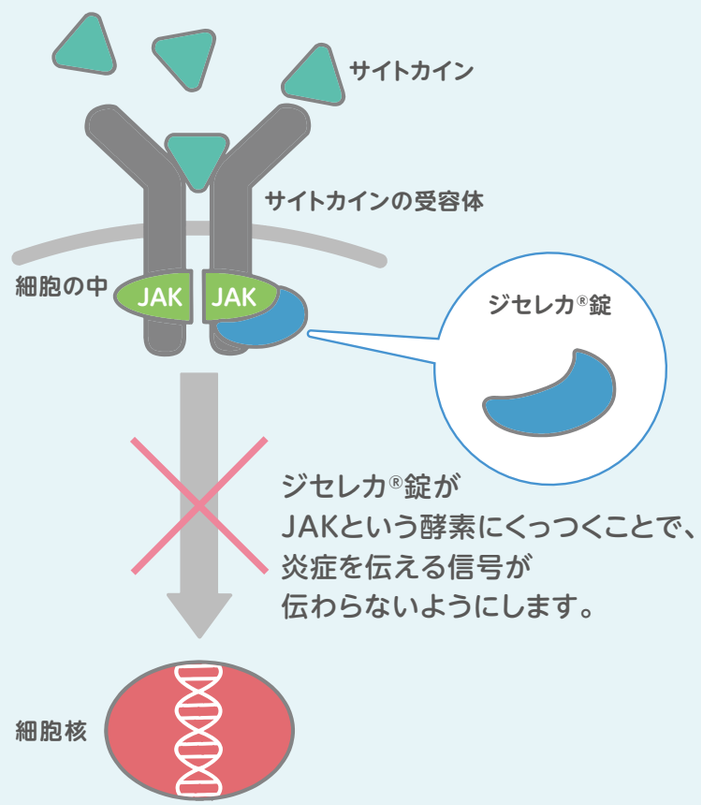
炎症が起こる仕組み



ジセレカ®錠はJAKという酵素にくっつくことでサイトカインの刺激を抑え、炎症をコントロールし、痛みや腫れなどの症状を抑えるお薬です。

（イメージ図）

ジセレカ®錠のはたらき



O'Shea JJ, et al. Annu Rev Med. 66:311-328, 2015
Rawlings JS, et al. J Cell Sci. 117(Pt 8):1281-1283, 2004より改変

ジセレカ®錠の服用方法

成人の場合、通常、200mg錠1錠を1日1回服用します。

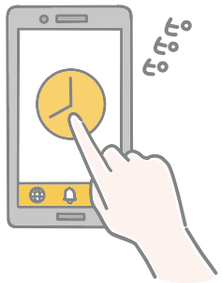
＊100mg錠を1日1回服用の場合もあります。
医師の指示通りに服用してください。

食事のタイミングに関係なく服用できますが、
毎日同じ時間に服用するようにしましょう。

飲み忘れを防ぐためのヒント

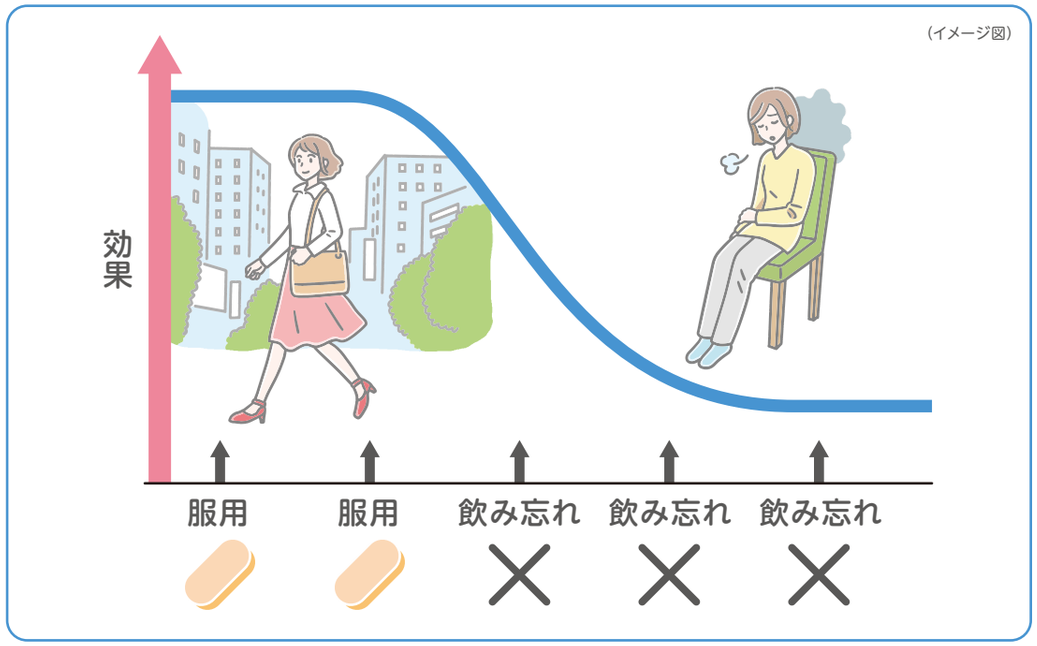
歯磨き、朝食、毎日の散歩などの
毎日の生活習慣の前後に服用する

スマートフォンや目覚まし時計の
タイマーをセットする



「ジセレカ®錠ダイアリー」を
活用し、服用日時を記録する

自分の判断で服用する量や回数を変更したり、服用を中止したりせず、指示通りに毎日服用を続けることが大切です。



もしも服用を忘れてしまったら？

気づいたときにすぐに服用してください。1日服用を忘れた場合は、服用しなかった分を飛ばして、次の日に1回分だけ服用します。
服用を忘れても2回分を1度にまとめて服用しないでください。

間違った量を服用してしまったら？

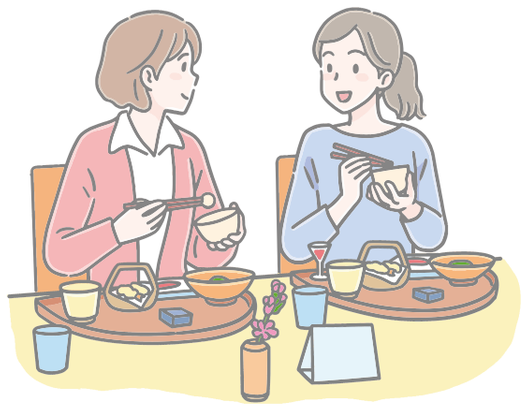
指示された量以上に服用した場合は、医師または薬剤師に報告してください。副作用があらわれる可能性があります。

関節リウマチ以外で治療を受ける場合は？

必ず、医師または薬剤師にジセレカ®錠を服用していることを伝えてください。薬によっては、ジセレカ®錠の作用に影響を及ぼすものがあります。また、ジセレカ®錠が他の薬に影響を及ぼす場合があります。

ジセレカ®錠による治療を続けることで期待できること

関節の痛みや腫れ、こわばり、だるさなどの軽減や、
関節破壊の進行を遅らせることで、生活の質への影響が期待できます。



ジセレカ®錠の服用前に確認すること

ジセレカ®錠を服用するにあたって、問診や血液検査を行い、下記について確認します。

主な確認事項

- ☐ 過去にジセレカ®錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがないか
- ☐ 妊婦または妊娠している可能性（女性）
- ☐ 妊娠の希望（男女）
- ☐ 授乳しているかどうか（女性）
- ☐ 重篤な感染症にかかった経験、かかる可能性
- ☐ 肝臓や腎臓の障害がないか
- ☐ 結核にかかっていないか、かかった経験はないか
- ☐ B型肝炎やC型肝炎にかかっていないか
- ☐ 血液検査（リンパ球、好中球、ヘモグロビン値）に異常はないか
- ☐ ワクチン（生ワクチン）接種の接種予定はあるか

ジセレカ®錠の服用中に注意すべき症状-❶

感染症

ジセレカ®錠の服用中は免疫の働きが低下し、感染症にかかりやすくなる可能性があります。軽い風邪のような症状であっても急に悪化することがあるため、症状に気づいたらすぐに主治医に相談してください。

主な症状

- 発熱
- 咳
- だるさ　など

帯状疱疹

帯状疱疹は痛みを伴う赤いぶつぶつ（発疹）や水ぶくれを主な症状とする病気です。出やすい場所は、胸、お腹、背中、腕、顔で、通常、体の左右どちらか片側にあらわれます。ほとんどの場合は適切な治療によって回復しますが、治療の開始が遅れると後遺症として痛みやしびれ、発疹のあとが残ることがあるので、早めの治療が必要です。皮膚にチクチク、ピリピリした痛みを感じたら出来るだけ早く医師の診察を受けてください。

主な症状

- チクチク、ピリピリした痛み
- しびれ、かゆみ
- 赤いぶつぶつ（発疹）
- 水ぶくれ　など

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

ジセレカ®錠の服用中に注意すべき症状-❷

血液検査値の異常

好中球数、リンパ球、ヘモグロビン、クレアチンホスホキナーゼ(CPK)、リン濃度などの検査値に異常がみられることがあります。

感染を疑う症状	貧血を疑う症状
● 発熱　● のどの痛み　など	● めまい　● ふらつき　など

肝機能障害

肝臓の機能が低下する可能性があります。稀ではありますが、B型肝炎ウイルスが再活性化する可能性があります。

主な症状
● 皮膚や白目が黄色くなる　● 食欲の低下　● だるさ　など

消化管穿孔

胃や腸に穴があく消化管穿孔が起こる可能性があります。憩室炎(大腸の一部が袋状に膨らみ炎症を起こした状態)を指摘されたことがある場合は、消化管穿孔になりやすいと考えられているため、必ず主治医に伝えてください。

主な症状
● 激しい腹痛　● 下血　など

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺の中で酸素を取り込む肺胞の壁(間質)に炎症が起きた状態です。

主な症状
● 発熱　● 息切れ　● 痰の出ない咳(から咳)　など

血栓症

ジセレカ®錠との関係は明らかではありませんが、心筋梗塞、脳卒中、静脈血栓塞栓症がみられた患者さんが報告されています。

悪性腫瘍

ジセレカ®錠との関係は明らかではありませんが、悪性腫瘍がみられた患者さんが報告されています。ジセレカ®錠服用中はがん検診等を定期的に受診し、検査結果を主治医に伝えておくとよいでしょう。

厚生労働省推奨のがん検診項目

種類	検査項目	対象年齢	受診間隔
胃がん	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳代	2年に1回
	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	30歳以上 ※市区町村で実施する検査項目をご確認ください。	2年に1回
	問診、視診及びHPV検査単独法		5年に1回 ※罹患リスクが高い者については1年後に受診
肺がん	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上 ※喀痰細胞診については原則として50歳以上の重喫煙者(喫煙指数600以上の者)のみ	年1回
乳がん	質問(問診)及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

厚生労働省 がん検診「市町村のがん検診の種類について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html(2025年5月閲覧)

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

医療費負担を軽減する制度

主な医療費助成制度

高額療養費制度

医療費の支払いが一定額を超えた場合、超過分の払い戻しを受けられる制度です。
負担を軽減するさまざまな仕組みが設けられています。

付加給付制度

健康保険組合によっては、独自の付加給付を受けられる場合があります。

医療費控除制度

1年間の医療費を確定申告することで、所得税を軽減できる控除を
受けられる場合があります。

難病医療費助成制度

指定難病の方の医療費を公費負担として軽減する制度です。

その他の公的制度

障害者福祉制度

障害者福祉制度を利用するには身体障害者手帳が必要です。
身体障害者手帳によりさまざまな支援を受けられます。

介護保険制度

介護保険は65歳以上で原因を問わず要支援・要介護状態となった方が対象ですが、
関節リウマチと診断された場合は、40歳以上で申請が可能です。

主な医療費助成制度などについての冊子を
ご用意しております。
ご希望の方は、主治医または看護師に
お伝えください。

MEMO